

## 令和 2 年度 第 2 回 学校運営協議会記録

	学校名	男鹿北中学校
開催日時	5 月 1 0 日 ( 月 ) 1 6 時 0 0 分 ~ 1 7 時 1 0 分	
出席者名	<p>会長：佐々木 志穂 副会長：原田 貢</p> <p>委員：三浦 豊彦、豊沢 正、伊藤 文興、目黒恵里子、 石井 純、笹渕 美穂、工藤 育夫</p> <p style="text-align: right;">計 9 名</p> <p>欠席：大森 静香</p>	
協議内容 委員発言内容 等	<p>○前期学校評価の結果について ○学校統合に関することについて</p> <p>これらについて、資料を基に説明した後、各委員から質問や意見、要望等を伺った。</p> <p>(委員)「学校生活が充実している」で評価が高く、一人一人の活躍の場を保証しながら取り組んできたことが評価されたとあったが、評価に学年差がある。生徒のようすも学年差が大きいのか。</p> <p>(学校) 男女比や学年の人数の関係もあり、学年差がある。3年生は</p> <p>(委員) 男鹿南中との生徒交流を進めていくこととなるが、かつては地区の小規模の小学校の児童が鹿山小に集まって合同授業をしたことがあった。どのような交流を考えているのか。様々な方法で交流を進めてほしい。</p> <p>(学校) 保健体育の球技や音楽の箏などの授業を合同でできるのではないかと考えている。また、北中にきてもらってなまはげ太鼓の体験をしたり、後期の生徒会同士でオンライン会議を進めたりすることもできると思う。移動時間のこともあるため、回数は限られると思う。今後男鹿南中と相談しながら進めていく。現段階で、合同チームや合同練習などで関わっている部活動もある。生徒達は非常によい雰囲気である。様々な方法を取り入れていき</p>	

い。

(委員) 生徒の中には引っ込み思案な子供もいる。生徒達が大勢の中で戸惑わないように、生徒交流を進めてほしい。

(委員) 知り合いから、ある中学校で産休補助で赴任した先生の容姿をからかい、SNSで発信した生徒がおり、まわりの生徒がそれに同調し、その先生が学校を休みがちになったという事例を聞いた。このような場合、学校はどのように対応していくべきか。

(学校) これからの時代は、生徒にスマートフォンを持たせないようお願いしていくのは現実的ではない。正しく使うことを教えている必要がある。1人1台整備されたタブレット端末を家庭に持って帰ることを考えると、使い方の指導は今まで以上に必要となる。まずは教師が最新事例や指導法を知ることからと考え、教員対象の研修会を予定している。研修で学んだことを生徒や保護者にも伝えていきたい。

(委員) 繰り返し様々な方法で伝えてほしい。

(委員) 県生涯学習センターから講師を招聘して情報モラル教室を開催したことがあった。このような取組も単年ではなく継続していけるとよいのではないか。